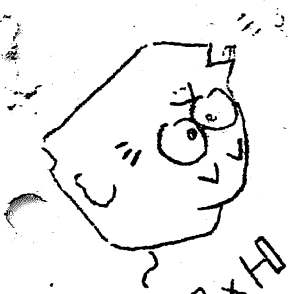


から オン+23-1"

# スナップ "SUNAC" 99



$$\nabla \times H - \frac{\partial D}{\partial t} = J$$

$$\nabla \times E + \frac{\partial B}{\partial t} = 0$$

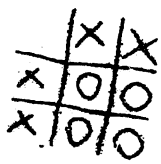
$$\frac{\partial \rho}{\partial t} + \nabla \cdot j = 0$$
  
$$\frac{8\pi^2 m}{h^2} (E - U) \psi = 0$$



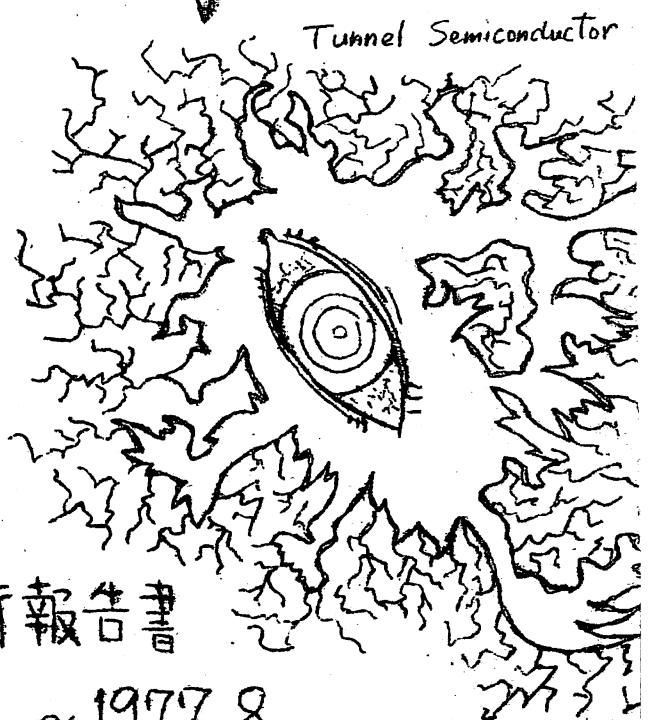
It's simple!



瓶一  
新野  
又  
一  
山  
花  
開  
明  
我  
一  
瓶  
明  
野  
花  
開



Tunnel Semiconductor



片 津 大 井

個人山行報告書

1977.4. ~ 1977.8.

常念〜燕岳

燕岳 ヲウフ

ビヨウフ

黒都

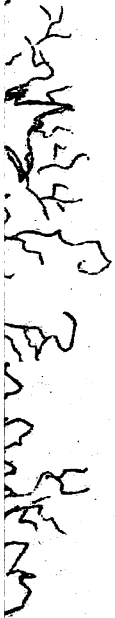
魚野川

錫丈 白〜滝谷

中又後の沃

越の鹿下

下 S.T. がら





実は今日のうちに念願の常念アタックを試みるはずであったが、小屋についたのかこのほかおくれしてしまったのであきらめし、かり寝下。

26日 キリ〜①

常念小屋 - 横通岳 - 大天井岳 - 燕山荘 ⇔ 燕岳  
- 中房温泉 = 有明駅 = 松本

朝おきるとキリで全然視界が悪い。東葉大の人たちは朝早くテントを撤収するというのが、今朝は之らく早く起きとしました。充分にお礼を申し上げてお別れしました。キリ一つキリなんも見えてはいないこと。あまり常念岳アタックを断念。一路燕山荘に向う。稜線に出ると之はほとんど平らであった。途中大天井岳ピークで山田・吉野・山本がやってきました。猶らは燕岳から常念へ向けるとの途中であった。このピークにおいて穂高から松にかけるが雲間に現われた。感動的のござり。猶らと別れとさらに歩を進める。蛙老は両側に岩の壁がとまている。燕山荘につく。テントのことを簡きにいたら、もう整理してしまふということをお礼にもついた「ホワイ」を受けとってくれた。それで燕岳にアタックする。ピークの付近は奇抜な岩の沢山ある。

まあ下山の途につこう。中房温泉で露天風呂本はいるうとしたかみからす。藤田には悪いことをしたか、はいるすたバスにのった。

※ 一泊の山行であったが様々なことがあった。  
自分なりに充実感があった。

# 屏風岩

6月25日~6月27日

東壁ルンゼ下部~雲稜~同ルート下降~T4~青白ハングディレクション  
Leader 山本章(教Ⅲ) 片山博彦(農Ⅲ)

6月25日 ●

松本=上高地→横尾岩小屋

午前中松本で買い出しをし午後から横尾に向う。避難小屋はしりとり、しかたなく岩小屋に泊る。

6月26日

BS→取付(6:15)→T4(8:20~40)→雲稜終点(12:20)  
→T4(13:50~14:05)→二段テラス(15:10~16:05)→大テラス(16:15)

1ピバウ分の ESSEN と本をもつて東壁ルンゼに取付く。昨夜までの雨でぬれている。しかも泥がついているのでかなりこわい。山本 Top で取付くか 4m 程登りすり落ちてしまう。最初からこんなことがあるといやになる。再び取付き。今度はどうやらのはれとホッとす。ツルバズにザイルをのびしていか。ザックが重く A1 のフェースも 1つこうシンドイ。4P で下部壁を終わり。雲稜ルンゼに取付く。さすかによく登られている T1T にルートも安定しており。ザックの重さにヒーコラしながらも快適に登れた。扇岩では元部員が羽鎌田君に会ってたりしてなかなか楽しい。東壁ルンゼへはトラス入り。その中を 100m 程登り終りる点のブッシュが真直に見えたところまで終わりとする。本来ならこれで終わりなのに、又降りて登り来るのかと思うとウンザリするがしょうがない。支点がしっかりしているので順調にアブザイルで T4 まで降りることができた。40m 3回で扇岩へつき扇岩からは大テラスにトラスし。真直に T4 までおりる。60m 程あるが一段おいたところから途中まで下り。そこからクライムダウンする。T4 でしばらく休んだ後 バックスバンドをトラスしてディレクションルートに入る。

もろに A1 フェース 2P で二段テラスにつく。ここから 3m 程はり出したハングに片山 Top で取付くが今までの疲れと重荷、加うるに慣れぬひさしの乗越に片山がバテてどうしようもなくなる。しかたなく今日は大テラスでピバウダセおりに来てもらう。アブミのかけかえど又降りてきて大テラスへはトラスする。テラスは広くその夜は水こそ少ないがます打平和に過ごすことができた。

6月27日 ㊦—①

取付 6:20 ~ 終了 9:20 → パノラマ新道 → 上高地 → 松本

紅茶一杯とソーゼー1本だけの朝食をすまし、また二段テラスへ  
トラバースに登ります。食糧も水もたぐりつらさなく、昨日  
苦学したハンクも難なくこえることが出来る。青白ハンクは2.5m程の  
ひさしを越えていく。支点がしっかりしているのに、果たがまさかには高度  
感はずいぶん。二段テラスからほぼ40m いったい2Pと青白ハンクを  
こえて次の1Pとホーショウ。終了点に達しておわりとなる。ここから  
コンテと雪積ルートの終了点の広いテラスに2PゴチャゴチャにTJした  
登攀具をほう。後はひたすら水をもとめて上高地へと急ぐ。

✂️ 夏に計画している奥鏡のトレーニングとしてこの山行をおこなった  
のだが、さすがに重荷をかけたひさしの攀登はきつ  
いビバークにしてはたがたかたかよトレーニングにはおこなったと思う。

(山本)

まんとりんく



まんとりんく  
おぼろ

# 屏風岩 東壁 ルンゼルト

7月20日 山本章(教員) 片山博彦(農正)

7月20日 ①/② 3:30 上高地サマーテント～(7:00-13:25)  
屏風岩東壁ルンゼルト・バノワス新道・上高地  
サマーテント(10:30)

朝飯はけまねでテントの口におい、また暗い棚尾への道を急ぐ。  
木立とツヤウチのぼりがある。北壁の岩出しを登り、7:30 上高地に  
東壁にとりかへ、山頂の下の部室を登るときは、入る音がした。  
今日は荷物が軽く、十十の軽さである。この岩は中央に大岩で、20m  
ほど上り、今日は山頂と山頂の間に、7:30 上高地に、  
体はさうして、上部室にとりかへ、取付け5P。上部室に立てた  
様な感じの岩の軽さにできた4=7(7:40)の付く、上部室(一部で  
右の岩の重さと同じ)を登り、上の上のテラスに出る(ここは東壁のバネ  
の重さ)の付く(6P)。山頂の重さは登りたての重さ(左の山頂の重さ  
の付く)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)  
と進んで、上り(25m)

7P、左の山頂の重さの付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)  
上り(40)8P、左の山頂の重さの付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)  
上り(40)7P、左の山頂の重さの付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)  
上り(40)7P、左の山頂の重さの付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)  
上り(40)7P、左の山頂の重さの付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)

7P、左の山頂の重さの付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)  
上り(40)7P、左の山頂の重さの付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)  
上り(40)7P、左の山頂の重さの付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)  
上り(40)7P、左の山頂の重さの付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)  
上り(40)7P、左の山頂の重さの付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)

7P、左の山頂の重さの付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)  
上り(40)7P、左の山頂の重さの付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)  
上り(40)7P、左の山頂の重さの付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)  
上り(40)7P、左の山頂の重さの付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)  
上り(40)7P、左の山頂の重さの付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)

② ルンゼルトの岩は、7Pの重さの付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)  
上り(40)7P、左の山頂の重さの付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)  
上り(40)7P、左の山頂の重さの付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)  
上り(40)7P、左の山頂の重さの付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)  
上り(40)7P、左の山頂の重さの付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)の付く(7P)

常念山脈(縦走) 6月26日 ~ 6月27日

△ 吉野(工I) 山田(緋I) 加藤(豊I)

6月26日 ① → ②

松本 = 有明 = 中房温泉 (15:30)

— 燕山荘付近の天場 (17:50) ⇔ 燕岳

6月27日 ① → ②

T.S (4:30) — 大天井岳 (6:15) — 常念乗越 (7:35)

— 常念岳 (8:50) — 蝶ヶ岳 (11:20-12:00)

{ 1時間ほど大滝山への登山道を歩いたのに苦労する }

— 二股 (13:00) — 松本 (19:30)

○ 蝶ヶ山の大滝山へのガイドブックの道はまちがいで1130で  
訂正する必要がある。

○ 蝶ヶ山は金谷の山で松本まで歩いて帰った。



# 黒部, 丸山東壁～奥鐘山西壁

┌ 南東壁塚田ルート  
├ 中央ルンゼ  
└ 京都ルート

7月24日～8月1日

△ 山本章(教, Ⅳ) 片山博彦(農Ⅲ)

「実際に乗(山)岩登りでした。岩を登る時のあの期待と不安、そして登った  
あとの充実感、とすばてかうまく行きました。特に奥鐘山西壁は2年前に  
長野の西川、尾和、パーティが西で敗退して以来、信大ではたれも登ってこず、  
僕達も非常に苦労はしましたが、無事登ることができ、11つにたい満足感  
を味わう事ができました。でも夏のさかりに黒部の岩へ行くのは考えもの  
です。というのは、天気が良いと非常に暑く、死にそうになるからです。  
まあ、これぞ一つの足がかりができたのですから、皆さんもせりせり  
トレーニングをして又、行って下さい。僕達も又、行くつもりです。(山本)

行動記録, (各ルートの説明とルート図は後ページにあります。)

○ 7月24日 ○ (天気は山行中すべて①か②)

松本 → 黒四ダム → 内蔵助谷出合

登攀具の11kgのザックはまたぐ重く、ダムの下りで山本がつかず、  
ヒザをすりむく。こういう事があると何となく嫌な気持ちになる。  
B.Cは内蔵助谷出合のちよとした広場にはる。(ダム放流を知らせる  
サイレンがある)、非常に暑く、山の中とは思えない程である。

○ 7月25日 ○ B.C → 丸山南東壁塚田ルート登攀 → 丸山  
→ 内蔵助谷平 → B.C

たれもなしと110ピッチの登攀だった。

7月26日

B-C (9:30) → 下の廊下 → 十字峡 → 阿曾原 (15:20)

今日の登攀で体力をすっかり消え(し)し、東壁ダイノルート  
へ行く気力を存くしてやる。この暑さでは奥鐘山にどくらく日教を使うが  
判らず奥鐘に全力を使うには早目に行つた方がよいと、かてに理由  
をつけて、ささと奥鐘に向かう事にした。今日も暑くてバテながら  
下の廊下を下る。心配した別山の雪渓も大した事もなく、全  
運動靴で歩いて行く事ができた。阿曾原ではフロに入るが、目の前に  
白いものがキラキラして、結局、今日もすごく疲れてしまったのだ。

7月27日 ○ TS (7:15) — 志合谷下降 ~ 奥鐘山西壁下  
の岩小屋 (11:40)

2Pで志合谷まで行き、水平歩道から西壁を観察する。スケール  
が良くあからぬが、一応、中央リゼと、京本ルート of 概念をつかんで  
おいてから志合谷を下りる。谷そのものは下りるのに苦労しなもので  
5分程、阿曾原の方へ行った所から旧飯場跡へと下る道を下り  
こにする。飯場跡までは何なく降りれたが、そこから下りがかなり  
悪い。まず切れそうなアックスをたよりニ河原まで降り、その先の  
堰堤は20mのアブザイルンで降りる。後はブロッコ状の雪渓に苦労  
しながら全身スグぬれとなり降りる。この下降は悪いと(前)は  
いたがニおれと'Yは思わなかった。やとのことで黒部川に降り立ち  
下流に5分程行くと西壁の下である。気持ちは岩小屋が1Kつあり  
下は海岸の様な砂原でまことに気持ちの良い所である。荷物を  
整理したあと、中央リゼの取付を見に行く、良く判らぬが、存じな  
と適当にきり止めて、岩小屋にもどり、ゆとり休むことにした。

7月28日 ~ 7月29日 〇

奥鐘山西壁中央にせ 登攀 頂上から南越えへて

祖母谷にあり ケヤキ平から黒部川に 30分程登って

B.Cへ帰る。

7月30日 〇 (沈殿)

晴れてはいるが沈殿 中央にせの登攀で奥鐘山西壁が  
11月に大きいかを実感し、明日の京都ルートの手を思ふと気が重いの。  
大きな石の上に寝る人でも目に入るのはデカいハンクの運ばり  
横を見ても互いの顔のきたなさを、で、本来楽しいはずの晴況  
も、そんな二人で全然 金の休まぬ一日ではあった。

7月31日 〇

奥鐘山西壁 京都ルート 登攀、終着点より同ルート

下降

8月1日 〇

T.S — ケヤキ平 — 宇奈月 — 魚津 → 長野  
→ 伊那

きのう11月にはた静岡の人達と11月にはいる。

糸魚川であかあ、それぞれ長野と伊那へ帰る。

<丸山南東壁 塚田ルート> 7月2日

B・C (5:40) — 取付 (6:10 ~ 6:25) — 終了 (14:05)

丸山頂上 (15:20) — 内蔵の目力平 (16:30) — B・C (17:20)

\* ルート図は、新山日本の岩場と同じ、

14:20の押出しをため、30分程でルートが棚状奥部に出る  
取付点は良く判るが、棚状になった所の右側、<sup>に付た</sup> 角角に  
なつて居る所が、それらしい。シヤンケンに付けた岩がTOPで取り付く。  
(以下ツルベ式に登る)

1P目 凹状部をフリー (30m) 残置けカンはほとんどない。

2P目 左のカンテ状の所に出て快適なフリーで登る。ルートポイントが  
やや難しいが、ここは11ヶ所のルートが取れるようである。(30m)

3P目 巻ビレポイントから直上10mの後右へフリートラバースし  
そこから左上バンドを登る、おだしのルートポイントが難しい。  
(30m)

4P目 ここからボルトが垂打して居る。ぬけそうなボルトから  
リンクなボルトと11ヶ所人工が続く、リンクのあまりの細い  
シヤンケンが多数必要である。(40m)

5P目 頭上は5m程はり出した、すばらしいハンクだが、ルート  
は左上してハンクの左はしへゆく、人工とフリーで大きな木の所  
まで行く。(20m) 注意、ハンクにもボルトがうらこがあるが、  
これは別のルートである。

6P目 木から左にトラバースし凹角を人工で登つてその上を  
右に5m程度トラバースし行くと中央緩傾斜帯  
に出る。人工はA1だが、けこうつかれる。

すさまじい難い暑さで2人ともしばらく休む

丸山東壁は朝から陽が射たので奥釜以上に暑いようである。

7PM エンでブッシュ帯を左上 15分程、急なやぶこぎをして上部壁  
の取付である、南東壁にセ"の入口に出る、(約100m)

8PM 片山TOPで上部壁に取付く。ここはV線と言われている所だが  
出だしが難しい他はたぬという事もなく、草がはえおりにせから左の  
かたでこぼしする (30m)

9PM 草や浮石の多い、いやなセ"途中、棚状の所を右から越え  
りけなコル状のテラスに出る。(40m)  
暑さはますますはげしく、2人ともしばしば休む。

10PM 人工で15m程登り、右にうつてブッシュ帯のセ"を登る。  
(30m)

11PM 山本が最後のピッケにかかると、でびして浮石もつがんで  
落ちそうになり、セ"わたる神経が、キツとちぎれる。  
左にやさしいクランクを登り人工で直上、かたぬ人工だが  
バテているので非常に(ムツ)い。最後は変な形の本を  
登ってブッシュ帯に入り 登攀終了(30m)

○1時間強で、丸山頂上に着く。立山方面に向かい、5分程行き  
後は小さな沢を、草やブッシュまたよりに強引にホリて内蔵の水平  
に出る。BCにホリたのは17:20であった。

※ 下部はたかたか楽しいルネだが、上部は草や浮石が多く  
大変だった。注意すべきことは、最初のルートファインディング  
不安定な支点、と(夏のはかり)なら、体力であると思われる  
(現に奥鈴と来た静風の方は取付があからずく、端のぼれなくて)  
(かたかたのセ"東壁の緩ルネに変更したと聞いていた。よ)  
何にしても屏風岩の東壁よりは変化に富んで、ホム(る)かった。

<奥金鐘山西壁 中央ルンゼ> 17日28日~29日

取付(6:05)→三浦岩テラス(7:30)→ブツ帯(14:35)→上ルンゼ  
(15:20)→B.S(15:55)  
B.S(6:05)→頂上(7:30)→名刺・温泉(11:05)→B.C(12:30)

○岩小屋から下流15分程行き 左の末淵のフカの中に入る。薄暗いブツ帯  
のふもと 先の見えない中を登る。10分程登ると右のルンゼ(きつな  
に滑り落ちて来たので、この下ルンゼでアサヒン(登り始める(11:30)

1P目 上ルンゼ(1x7yH) 登頂をぬけてアサヒンの中を右に上りアサヒン  
ルンゼに出る (45m III)

2P目 ブツ帯を右に(40m)(II+III) 2P目には登ると上部が急な傾き  
大部左に降りて右のフカの中を右に上りアサヒン

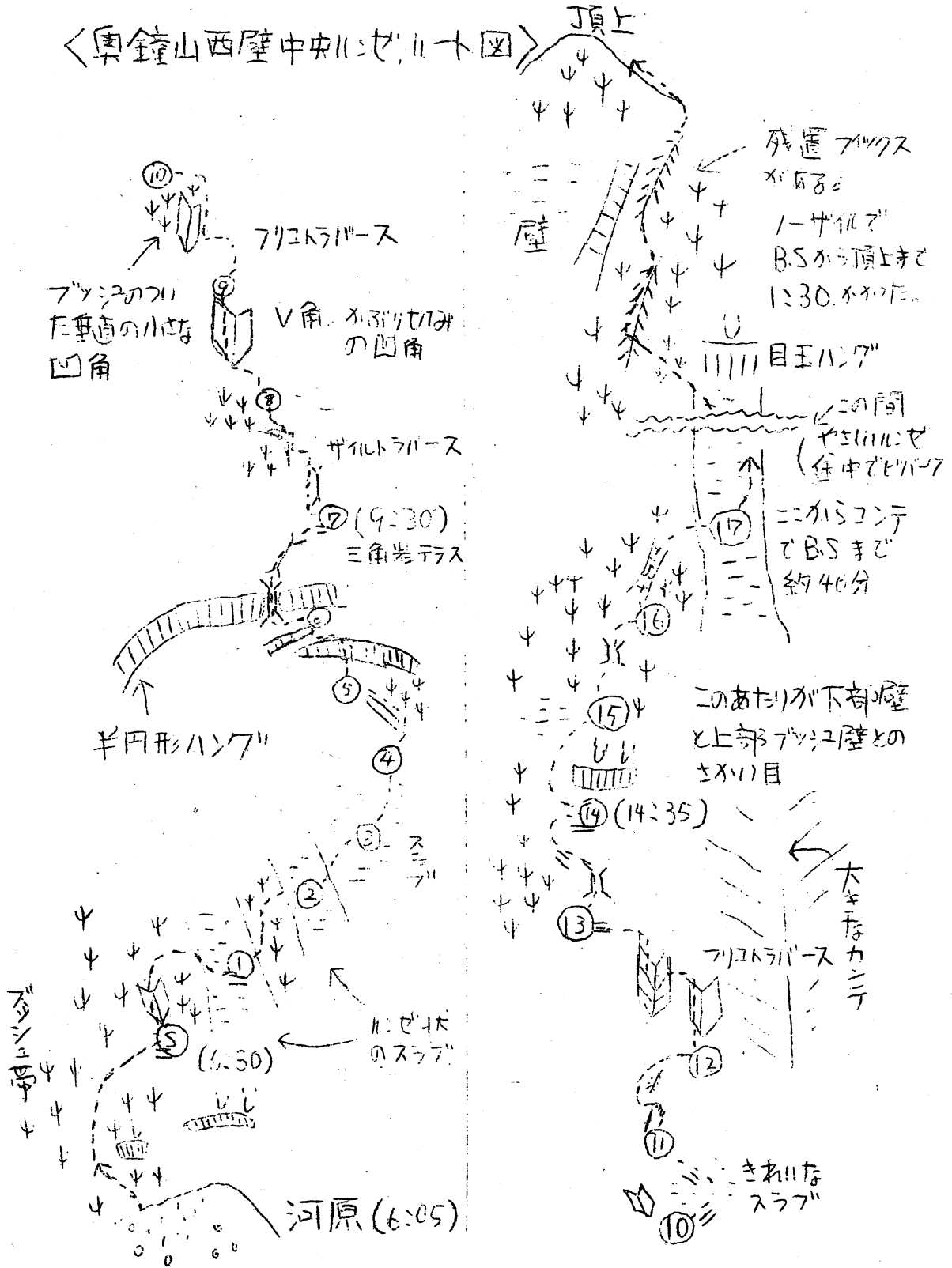
3P目 片山がスラブ 傾斜は左向きに傾き入る(傾斜が残置ルンゼ)  
1本を登りたが、ニオテ(水の不足と不安) (40m III)

4P目 同じようなスラブ (30m III)

5P目 ルンゼの傾斜が大部右に来る(傾斜が残置ルンゼ)があるので  
これをしるす(傾斜) 一段上のバンドを左に上りルンゼ下とつな  
(25m III+)

6P目 片山と下ルンゼの間には傾斜がきつな傾斜があるので 登り始め  
片山の前の方の傾斜がきつな傾斜に左に上りアサヒンの上の  
小バンドを登る(傾斜) 登ろうとした時にルンゼが傾け  
片山転落 幸い下ルンゼには傾斜がきつな傾斜の上で登アサヒン  
に傾斜がきつな傾斜の下に傾斜がきつな傾斜に傾斜がきつな傾斜  
と傾斜がきつな傾斜、傾斜がきつな傾斜は傾斜がきつな傾斜、元々  
片山は傾斜がきつな傾斜。今度は傾斜がきつな傾斜を打ち直し傾斜が  
登り始める (ここで片山がアサヒンに落ちたので予備のテ-70  
アサヒンを使う。) (15m III+A1)

<奥鐘山西壁中央にセリト図>



7P目 左にトラバースして行くと 半円形ハンブの切れ目と思いき44ニの下に出た。最初ハ工で登り、後は全身のフリクションで上る。  
とにかい浅いクラックを右上して 三角岩のテラスに出る (35m Ⅲ+A1)

~~7P目~~ 早く太陽があたり始め、暑くなり始める。  
小休止の後 再び登り始める。

8P目 左手のクラックを登り左にサルトバースして草のほえたテラスへ。  
クラックの壁もまたとした岩の傾度 完全なフリクション登攀である。  
下から見ると高く見えるので、TOPの片山に支向を1Pで11山本も  
11登り始める。新しく2落ちそうになり、あせる (40m ⅣA1)

9P目 ヤカリの葉付アースからV角の排布している凹角を登る。  
最初のハケンにとまるとは右の岩がとどろく。2本も前足に巧  
で登る。リスは1つに2つの子で 栗の岩 (35m Ⅲ-A1)

10P目 スラフをハ工で登り左にフリトラバース、またまた凹角を登る。  
右側に登って上のテラスへ (30m ⅢA1)

11P目 小さなテコがコがある 完全なスラフ 残置ハケンがなく  
しかも左にも右にもリキそうなので、さげん迷ったが、ホムを打  
賞 まで右に行くと下からは見えたり、バントが表れ始める。  
バントを右上してセー (40m Ⅳ)  
根回りがルートポイント、アが難しい。

12P目 前々草のほえたスラフ 傾斜はなしか 11Pより難しい。  
(35m Ⅲ~Ⅳ)

13P目 凹角を登って フリ工でまた左の凹角に移りその上の  
小さなバント状テラスに出る (40m Ⅳ+A1)



14日 右上して44=を登り 左上のバンドにでる。バンドの左端から  
もう一段上のバンドに出てピレー、ニニから完全にブツシ帯となる。  
(35m III A1)

ニニでしばらく休む。ニニは下部壁と上部壁のちょうど境目に  
あたっており、アマガイルンでボリたあとがある。  
ニニまで河原から8時間40分であり、ますますのスピードで登るが  
何しろ暑くて死にそうである。水は3Lもって来たがもう無残な。

15日 左からブツシ帯を適当に登る。急であり、また所々スラブ  
がでこるるので不用意には登らない。(40m III)

16日 同じ様なブツシ壁途中 (やや44=がある  
(40m III ~ IV)

17日 大部うすくなった登りやボリブツシ帯に登り上部  
にセトに出て登攀終了 (40m IV)

暑さと水不足で完全に11時に止む。しばらく休んでから上部(3L)にセ  
トに登り始める。上部にセトはルンセト通しに登るならかなり難しそう  
だが、右のブツシ帯とのコンタクトラインを登ればやさしい。

コンテニマスで40分程登った所でカギ頼をしまう

まだ4:00PM前で陽はまだ高いが何しろ11時にどうにも  
なれない。沢原ニニでピルークおこした。

幸か不幸か雨が降る気が利は全くないので各自がてに  
寝る場所を見つけてゴロ寝する。夜に入るとかなりすかしく  
なり、案外良く寝る事ができた。

7月29日70

今日おぼろしい快晴で暑くなりそうだが、村(川内)に少しでも登ると  
6:00AMに出発する。水は各自が2~3日分の入らるもうお(ま)で  
食事とる気もせず、おぼろしいスタート準備をとっただけである。

30分程で大きな棚状の目玉ハックの下につく。ここは上部はとも  
終りの様である。左の草の付いた斜面を登り小さな尾根を登る。  
アツシヤハツリは樹林帯という感じで比較的登りやすい。  
所々アツシヤハツリが尾根をたどって頂上を目指して頑張る。  
ハツシヤハツリが早く登りきりおけしんじ。トパークサイトから1時間  
半で頂上につくことができた。

ハツシヤハツリはどうかともなく頂上にたつた。ジュースの空カンにたまった  
雨水を必死に飲んでおいたのだからさういふものだ。

奥金鐘山は頂上に来たからと1つで安心するわけにはいかなかった。  
南越までの長いチヤブがここにあるのである。予想以上にここはチヤ  
ブ。おみちと等ほとんどなく。ただただチヤブを歩きおけを歩くだけ  
である。水分不足で汗もほとんど出た。有様で死にかけられる。  
歩き続けるが、1つに越えに着いた。頭にきて左側の斜面  
を頭を没打草を歩きおけから進みと30分程で相母谷  
稜線から

へ通じる南越までの道に出ることができた。そこから5分程行くと  
水分流れてくる小さな沢に出る事ができた。狂気のこどく水のみ、  
おみち、はしき、回る、K氏などは一袋にコップ1杯の水のみ  
保持が悪く作られたらいい。

後は急におき出た汗を気にとつても4つ立派な道を歩き  
名剣温泉では、ビビル等を備のみ、中ぐり黒部川を川に  
B.Cに帰る。

◎ ルートについて

何は長くしてバテました。大きなハックは無いが、非常に変化に富んだ  
おびらしいルートだと思ふ。技術的には、極度に悪くはないが、  
ルートファインディングが難しく、又残置ハッケンが少なうので、注意する  
必要がある。借産は、まともなルート図も、もつていないが、おみち  
乗しめた様な使もする。又ハッケンは確保用、前進用と10数本使った。  
(全部回収)

# <京都ルート登攀, 同ルート下降> 7月31日

取付(5:35) - 三角岩(9:50) - 大テラス(12:50) - 終了(15:45)

下降開始(16:00) - 河原(20:30)

まだうす暗い中, 岩小屋の真正面の対岸に行き, すぐ京都ルート取付く。  
片山TOPで登り始め, 後はツルベ式,

1P目 小岩を右を右とし, 小岩を右から越し後は直上 最初の所がやや  
悪いが 後は草のはえたスラブで やさしい。(35m Ⅲ~Ⅳ)

2P目 草付スラブを登り水平に張り出したオ1ハンクの下5~6m下まで  
(35m Ⅲ)

3P目 完全な5mの底, ハンクホルトの間が非常に遠く, 苦しい。  
ハンクをニえた所で切り (20m A2)

4P目 人工でほぼ真直に登る (40m A1)

5P目 さかさ階段状ハンクを登り最後のハンク下でアジビリー  
(35m A2)

6P目 最後のハンクを越えスラブを人工とフリーで三角岩下の  
テラスへ, (30m A2~A1 Ⅳ)

ここでしばらく休む, 早くも4時間寝たてている。

京都ルートは右側(南)が全体白々に大きなカマテ状になっており  
その影になっているので, 中央ハンクに載ると暑くないので助かる。

7P目 三角岩を左から巻くようにして凹角から人工とフリーで登る。  
右へ出 (40m Ⅲ~Ⅳ A1)

8P目 草のはえたやさしい凹状スラブを第3ハンクめがけて直上  
大きな草付テラスに出る。(35m Ⅲ)

9P日 テラスが右に移り、垂直な壁を登る。最後はやや かつりぎみ  
(30m A1)

10P日 4m程の 罅状ハンク 風がでてきてすずしく、すさまじい高度感  
も出て 非常に快適。ハンクを越えた所でビレー (15m A2)

11P日 スラアを人工とフリーで 登り大テラスへ  
大テラスより上でも、それほど大きな壁ではない (15m IV A1)

12P日 人工とフリーで 毎持の色のスラアをオ4ハンクめざして登る  
(25m IV A1)

13P日 オ4ハンクを越える。ヒサシというほどではないが、中々苦しい  
(20m A1~A2)

14P日 スラアからオ5ハンクを越える。ハンクは5m程度だが  
下の4. 比較すると比較的やさしい。ハンクをこえた所でビレー  
(40m IV A1+)

15P日 中がくく来た様な罅状ハンクをこえ、アソビ帯を登って  
大きなテラスに出て 登攀終了 (40m III A2)

ここからはアソビ帯が頂上へは後3~4時間登らねばならぬの  
だが、中央にせも登って頂上へはすぐに行けるので、  
アソビ帯にあり。とは言え、そのアソビ帯も ちやんと利  
れるのかどうか不安である。7. 無事京都ルートを登り終ったのは嬉しい  
が、まだ、完全に喜ぶことはできない。  
しばらく休んでから、おりはじめ。

(下降)

1回目、オ5ハンクの上まで (30m)

2回目、オ4ハンクの上まで、20m程度の空中ケンスイがある  
(30m)

{ 山本、空中ケンスイ 井にカシの糸を下降器に巻きこまれ 100本ほど }  
ぬけてしまった。死ぬほど、イタイのよ。

3回目 大テラスまで、空中ケンスイ 15mをぶくむ。(35m)

4回目 オ3ハンクの上まで (15m)

5回目 問題の所、ザイルをセフトヒから下をのぞくと  
ザイルの下端はどこにもついておらず、空中でブラブラしているが  
1.2mをばに8P目終りのテラスがあり何とかたりとうである

完全な空中ケンスイ 40mで下まで行き、体をぶつけてテラスに  
何とか入ることができた。(40m)

ここでビバークの準備をしていた2人組に出会う。聞けば、ルートをまちがって  
落石でザイルを切ってしまったとの事。静岡の人で、1Pしに降りして  
く木とたのまえる。喜んで1Pしに降りてもらうことになる。

6回目 7P目 終了点まで。(30m)

7回目 三角岩下のテラスまで。(30m)

8回目 オ2ハンクの上まで(20m)

9回目 空中ケンスイ 30mと10m程の下降でうましくホルト  
テラスにつく (40m)

4人では非常に時間がかり、早くも暗くなって来たので「ハンド  
ランプの用意をする。

10回目 オ1ハンクの上までおれたが、その下がどうなっているのか

さっぱりおからない。多少あせていたのか、ままたとばかりに1ハンク  
をまいる。40m(1Pし)おいても何もなくあおれたが、やつの事で  
ホルトを見つけ、アグミを2回程つめて下の小さなテラスにつく

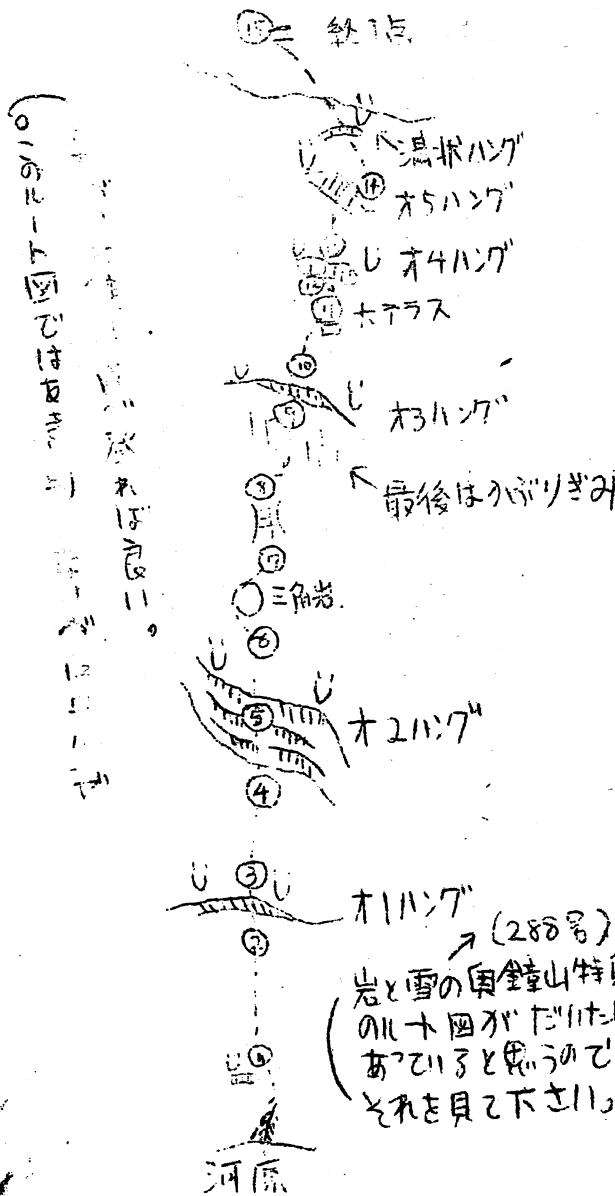
(40m + 17m + 4m + 1m)

11回目. 10ヶ所のテラスA (35m)

12回目. 越えてく河原に立立つ (15m)

もう初階である。疲れてはいるが11日での登下降は事に満足しきり2人で119-1 あり、11をわたってB.Cの岩小屋にもどるが、11尺などは雪のあまり夏まで水に凍かっていた様です。

<京州十ルート図>



(ルートのついで)

人工が多く、真直に登っているのでルートファインディングにはあまり苦労しない。

とはいえ、おた打ちというものはあまりなく、フリーホールドが保持し易い。各ハンクはそれぞれ非常に大きく、群の青白ハンクみたいのびがらであるから人工の練習をみずりやてから取付く等。

\* 各ルートのピョウグレートはた11た11の感じでつけたもので、正確なものではないが、た11た11面であると思う。

また奥鐘はスラブが多いためその練習をしておく必要がある。

岩は全体にヒョウリしており、すばらしい所であると思う。

(以上、山本記)

# 魚野川 第2ラウンド (上信越県境の沢)

7月23日~29日

上中島 由土田 瀬戸

1日目①→②

前日は長野部屋に明日長野電鉄権堂馬場川湯田中行的電車のりこみ  
ずくに眠ってしまう。眠っている間に湯田中についでしまう。バスは  
うまく連絡しており、バスの中でパンを食べてまた眠ってしまう。気がついたらもう  
終点の硯川だった。硯川ホテルの前に用意をおろして準備をひとのえる。周囲は  
修学旅行の女子高校生でいっぱい。山行への意欲欠乏してしまう。  
ホテルの人からたきつけ用のマコが本をもらい、こうしてミニスカートで  
目がくらまだけなので出発時刻にする。ホテルの向い御物リフィの下を  
はいり上りと湿原に出る。ここから大沼池までは1時間半ほどであったが、遊  
歩道の歩き易い道で、きれいなけしきにはいりながら歩いた。大沼池から赤石山へ  
の道はトロのいやな道である。苦勞をついた赤石山のピークは岩の気持のいい  
ピークであり、トロの道に下気のないけしきで下りさせてくれた。赤石山からは  
きれいなひとりの道で、ヤツの中を歩いているみたかった。さらに大沼池の裏から  
小倉山への道は、ガリはらた笹がその羽にならぬ、滑って歩きにくくと  
限りなっている。小倉山への道からはガリはらたなく、獣道のこま道をガリガ  
進む。笹だけならたしか、カとフヨが群をなして笹の周囲を飛び回り  
気が短かいそうであった。高沢山へ出て、ガリした道をみつけた時はほっとしたも  
のだった。高沢山からは遊歩道を歩いてそのうち走り出して、里野反湖までやっ  
た。予定では白砂川まで行くのだが、もういっやにならぬ湖畔にカ  
をはた。

2日目①

湖の朝は非常に気持がいい。笹もなくカもいない。湖の波打ちぎわで、ハ  
歩いて野反湖の南の売店についた。売店で白砂川への道をたずねると、「あれが大  
そのまこうが白砂川だから2時間ほどで川が尽きる」と言われうんざりしてし  
この売店では、又竹とごちそうにならぬ上にミカンとメロンをもらい、白砂川  
ハイキング道を歩出す。15分ほどで白砂川車道に上り、はやく歩いていたら車  
来たので、手を上げて、のせてもらった。白砂川林道入口でおろしてもらうと、  
どうにか車はまた止めてくれて、人の情にすがりかた。白砂川の水音が聞え  
て来てしまった。20分ほどで橋に出て、足を水にひたすまでかた  
白砂川は何もない川だ。河原がまると系統道を歩くと、かたならぬスピードで  
3ピ、4で、熊野の沢出谷についた。

白砂川はここからゴルジュ帯となり記録により、高巻かおはならないらしい。原師の沢を先登ってから尾根を一つ乗り越すのだが、我々は登り過ぎてしまい、とちゅうからトラバースして尾根とこえた。出合からピッチであった。別な問題となり箇所はなかったが、ゴルジュ帯は短い。そのまま登った話も聞いたことがあるので、高巻きはしなう方がよい。そうして、これは、白砂川は、おりにつまらない！我々も高巻いてから後悔したがあの剣であった。ここからまた河原が続き、スルスの岩洞の午前で行進をやめた。白砂川は鉱物質の水で魚は少ないが、売店でもらったシカと持参したモモかて、どうかな夕食であった。

### 3日目 ①→②

河原歩きピッチでスルスの岩洞についた。この岩洞は名前が知られている割にケケなもので、人がなんとか寝られぬくらいである。岩洞の上流100mほどの所へ左から小沢がはいついて、それと登ることにする。このまま本流を登たら、ササに苦しむ距離が長くなるので、おれ白砂山から付けたくなかったのである。この小沢は両側が赤い崩壊地になっているところが多く、いやな沢である。笹の上にリとくり、小滝を登り、ガレと草付を登り、笹とハイマツの稜線へ飛び出した。そこは1950mのピークであり、白砂山まではふみあととたとして2ピッチでついた。白砂山のピークは、ガスで向き入ないので、早々に流沢へ下降することにする。佐武流山への稜線を下ったコルから笹の中へつこむ。50mも下たら、沢へ出て笹から解放された。10分も下ると、水が流れだし、小滝の連続する美しい沢の中を、快調にピッチ下った。もう流沢本流のむこうの山が見え、出合は近そうである。調子に乗って、岩岸の流れを下って、ぐいとなく怪し気鬱な雰囲気になってきた。まあ、人々、怖るだろうと下って、ぐいと、ついに滝の上へ出てしまった。かきく50mはあり、そのはるか下にナメが見える。その下にも滝があつたので、下の滝まで一気に高巻くことにする。左のブッシュを登り、獣道をつなぎ、ルンゼを一つわたって、細い尾根の上に出る。尾根には、はきいたふみあとがあり、そのまま尾根を下って、下の滝が見え、所まで行く。下の滝は2段30mほどである。ブッシュをたぐって、沢へ下り、すぐに出合に出た。本日の行進はここまでの予定だが、まだ時間を早め、魚野川との出合まで行けば、小屋もあるので、もっと下りすることにする。しばらくは、流沢もまた、やかな流れが続く赤い崩壊地や岩壁が、次々にあらわれ、中をピッチ半ほど歩走り下ると、沢がせままり、ゴルジュがあらわれる。もう高巻はいやなので、ゴルジュへつこむ。ゴルジュの中は、なんとなく通過だが、出口が2段30mほどの滝になっていた。ルンゼを2本打って、アブサイを試しみる。



が上の段を下ってみて、もう1回では下でいけそうにないことがわかった。このまま下流へ行きつまりそうなので、ザイルをつたって登りなおし、ゴルジュをもとって左から急登く。草付をトラバースし、小さな屋根のツルへ出る。そこから足元のガリーと草付を本を支点にして2ピッチアップザイルして、草付を左へトラバースし、がしと下って滝の下流へおりた。ここから下流は、沢は曲りくねり、沢幅はせま、ゴルジュが次々にあつた。ゴルジュの割に沢身は平気で問題なく下れるが、なには雨がふって、乱電かなっている。今日はあせりばかりである。4時と回りころには沢もだいぶ広くなったが、先は見えない。5時になって20mの滝があらわれ、時にはが、刈草たもた。もうこの滝で下流へビバークしようとして、アプザイル15m1回して河原におり、ビバーク地をさがしながら下り、濃沢ダムが見えた。木につり橋があられ、もう歩かなくてもよくなる。たのがある。出合の小屋では、ダム工事の夫たちがもてなしてくれた。10時間30分行動した。

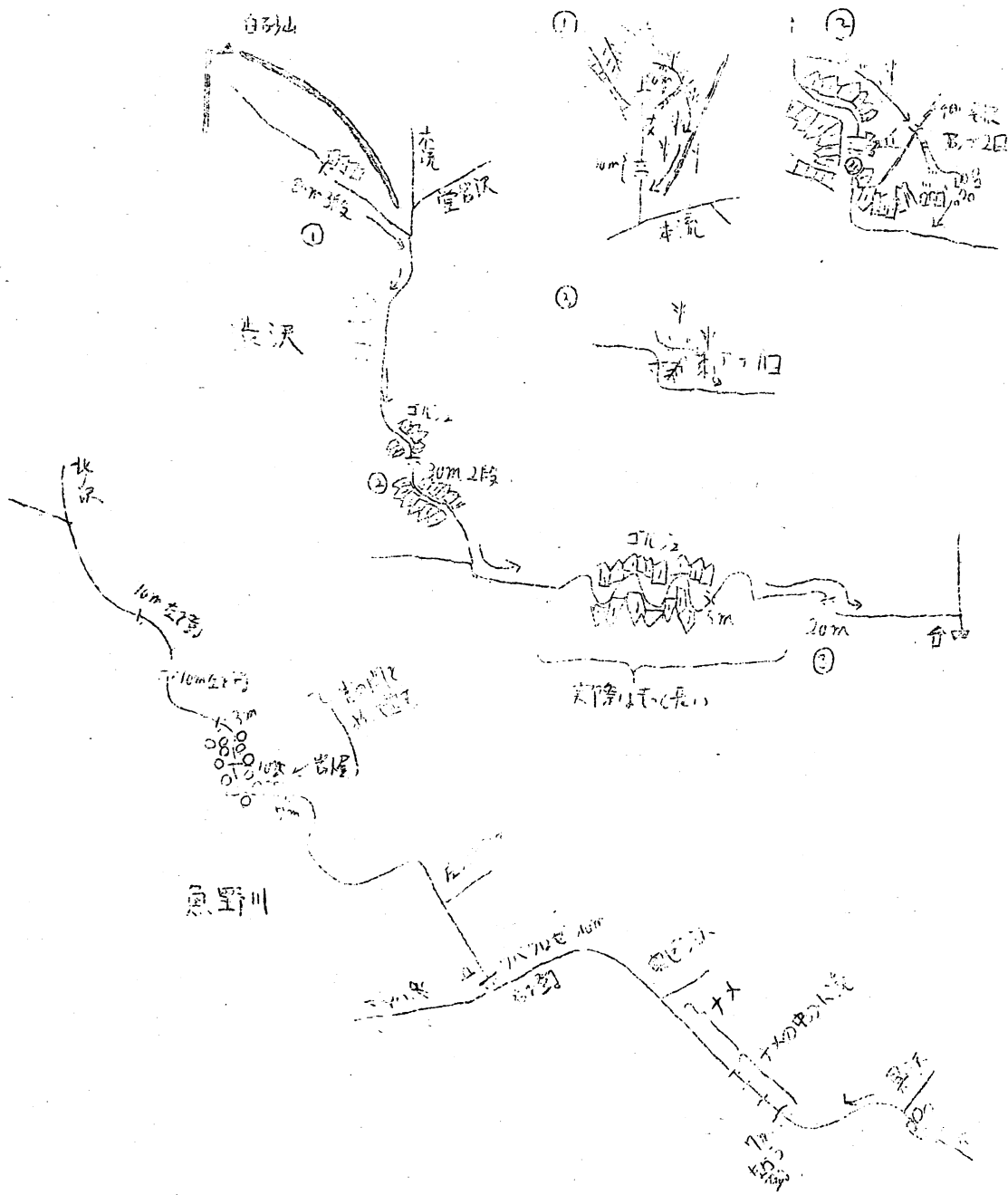
#### 4日○

昨日は大方かかったので、今日はのんびりと出発。ダムの橋をわたって河原におり、徒渉をりかえて、今日のビバークポイントになるはずだった。午犬出合と20分すぎ、2ピッチ目にして、昨年の最終到達点である大森上流の河原とすき、木が互直上であらうを走らうにして、3ピッチ目で黒沢出合をたてしろう。黒沢出合から少し行くと7mほどの滝が本流をせき止めてある。両岸ともスラブで急登きはずがしろうである。滝の下は大きなカマになっている。我々はカマの左のふちをへつて流水のせきを直登した。ここから上流は、しばしばうらやまが続き、急な滝である。ナメの中に3~4mほどの滝が3つあられ、とれず直登。スラブ状の美しい滝で、バランスを必要とす。ナメが大きくて落ちて、もろまわらぬので、楽しく登る。奥で黒沢出合の手前でナメおわり、しばしばすき、小森黒沢出合に本流はまたうらやま10mの滝となって落ち込んでいる。ここは右岸に急な崖、岩小屋があり、クラジがあつていた。我々には天の助けである。小森黒沢から1ピッチで巨岩がつみかさなるように、沢はけれくなる。右に15mほど登った所、岩小屋をみつけ、ビバークをきめた。今日は5ピッチしか行動しなかったが、なをわらした。岩小屋に荷をおいて、釣りに行く。3食つ上げ、この夕飯を楽しんだ。

#### 5日F

先、平からしばしば巨岩がつみかさなつて、増水時の急登川のすさまじさを感じさせられた。10m位の滝を2つこえて、1ピッチで南沢出合にす。我々は北沢にはいる。北沢はあつちやかな沢である。北沢を1ピッチで、沢が2つに分かれ、右の沢へルートをとる。この沢を小滝やナメがけ、こうありたのしやてくれた。したいに水がなくなり、沢は

ルンゼに変わつた川に遊(お遊)の中につても、背たけの傍まであり竹を分き  
 わけ道に出たときには「ホッ」としたものである。寺小屋山への道をおぼえ、たよりにて泉館山  
 まで行き、リフトに乘つて高天原へ下山した。魚野川は大変楽しい沢なので、一度は  
 行ってみて、いいと思います。



○ 中又 - 奥又 IV 峰 - 滝谷

メンバー L 中嶋 瀬戸 竹内

期間 8月2日 ~ 同4日

8月2日 ① のち② 1時④

S.T - 中又白谷 - 前采 IV 峰 北条新村ルート取り付  
 5:00 8:00 取り付き 2F00  
 ミ - インセル末端 2:30

本日の予定は S.T から 中又白谷を登りその後 IV の北条新村を登ル。という事で 朝早く S.T をお登する。いれども 中又の F<sub>1</sub> の取り付きまで約 3 時かかる。F<sub>1</sub> は 雪けいがか残っているが なんとか直登できそうな気になるが やっほり 右岸より

高巻く。その後 F<sub>7</sub> まで 快適に通過 F<sub>8</sub> は

思ったより 岩がもろく。サイル ピッチと 10m ぐ

らいて 通過。その後 昼食を少し食べて 奥又白

に向けて出発 約 30 分ぐらい スラッ (30° ~ 40°)

をてくてく歩く。三人とも クツすれになりそうになりながら 13:30 に 奥又白の池に着く。ここで 永ま

くし いよいよ 4 峰へ。4 峰には すでに 3

パーティほど 取り付いている。我々が 北条新村への

取り付きに着く少し手前あたりで 雨がパラパラと

ふってくる。なんとなく 意よくも 無し。本日は インセルの末端まで エンター

8月3日 ①

下 3 - 北条新村 ~~ルート~~ - 4 峰 エンター - 網沢  
 5:00 取り付き ~~5:30~~ - 終了 10:00 ~~11:00~~ 12:00

北木小屋 登山者

3:00

朝一番に4峰に取り付く。1・2ピークは竹内トツア  
て、ハイ松テラスで3人集合し、ここよりセト・中嶋一  
竹内順の順で。カク心部の二のハンクは、サックがおも  
たいせいが、それともトレーニング不足のせいか非常にし  
んどかった。北条新村を10:30にゆめけて三、四のコレ  
より涸沢へ。ここには3人とも脱水状態にて涸沢で  
水をかき飲み、昼食を食べていざ北木へ。三人と  
もバテバテになりながら南後テラスに着く。予定ではこ  
れから一尾根左ルートに登るつもりであったが、時間的  
にも、体力的にもせりと断定。本日ここまで。おやすみ。

8月4日 ①

トコ - 一尾根左ルート - T.S - 網 S.T  
4:30 取付 5:30-8:30 10:00 4:00

朝は暗いうちからまゆりのどのテントもごきごき起き  
始め。我々も今日はガンバルつもりで4:30には出発。北  
木小屋で届け出して、いざ滝谷へ。B沢で先行パーティ  
を見出し、同じルートでないことを確かめながら一尾根  
左ルートに取り付く。夏でも朝の滝谷は寒い。中嶋一は  
一竹内順の順で5Peakで快適に登る。但し、竹内君  
5Peak目でスリップする。3時間で終了し北木小屋で少  
し休み、B沢へ。今度は早大ルートである。しかしB沢  
下降の途中でセト君、岩に左手親指の先をつぶされ  
急ぎ下山することになる。けむりはあたたかたことはない  
ようであるが、一様、涸沢の診療所で手当てを受けて  
から下山し、Summer Tentへ。

by セト

# 錫杖岳 8/10 ~ 8/14

L. 師田. 箕田

8/10 9:00 サマーテント出発  
5ピッチ半で クリヤ谷の岩小屋 14:10

## 8/11 "ルーゼ"

5:45 出、岩小屋のうらから 2つ目のルーゼの押出しを始める。  
ひとつ目は 2ルーゼと 3ルーゼの合流したあしだし。

6:20 とはん開始。

1P. Top 箕田 IV ~ A, 40m. ◎

2P 師田. A<sub>1</sub> ~ III 30m. コニテ 50m

3P 箕田. III上 ~ 大テラス ~ 10m. 核心の前につきる ◎\*

4P 師田. かぶっている核心は 左へまわりこみ. III 15m  
のひて 40m っぽい。

5P 箕田 ルーゼへ入り、ぬれといる人工の前で切れる. 40m.

6P 師田 A105m ~ フリッシュ III 35m. 木の中へ達する。

7P 箕田 ひたすら木のほり II半. 40mで 視界ひらけ  
finish ◎ 10:50.

11:30 下山開始. 13:10 B.C着。


8/12. ◎ また降りける天気

## 中央壁

5:05 B.C出. 6:05 開始 (コニテで 50m 位のほり)

1P 師田. フリッシュ 40m III

2P 箕田. フリッシュ 30m. 4L = 取付前で切れる。

3P 白市田 二段 4m ~ 。 4m ~ から左へ 3m まで  
4m ~ 。 バックアピドフット IV 中 ~ 上  キ  
ブリッジをにぎって 浮石まじりのぼる。

4P 箕田. III 5m ~ II 35m. ブリッジのリッジ

5P. 白市田. 25m II で 岩壁の下 (大テラス). ここで  
-ルニゼ 右ルニと交わる. 9:30. 川崎重工のテボ  
みつけて たべる. たべる。




6P 箕田. A0 ~ III ~ A1. アグミかけかえ 40m

7P 白市田. クラック III 20m. 横断バントに出る.  
白市田さんが. ほくのみつけたアグミをリヤクダツする。

ここから上部いなかまよつたが. ハーケンにつらぬて行く。

8P 箕田. 遠いホルトへのアグミトラバースに 1時間程苦労する。  
ハーケンかん打のオバーをこえ. バンテ 25m で 70m.  
やはり U だな。

9P 白市田. 10m A1 かけかえ. U 角つづき ~ ブリッジ 10m  
でゴール. 12:45 終了 同じ道下る

8/13.  →  沈 8/14  5:50 3ルニゼ取付. 6:00 開始

1P 箕田. 左からまわりこみ III 上 10m ~ II かし場 30m

2P 白市田. 左フェース. フリー快適なもの IV 下 20m ~ III ルニゼ.

3P. 箕田. III 40m 4ヨックストーンの真下でできる

4P 白市田. 4ヨックストーンのおきまを抜け 右から左へ アグミトラバース.  
IV A1 ここが 核心. 30m で 70m. 4ヨックは バックアピドフット

10m ついて.

5P. 箕田. 左 A0 ~ 大4ヨックストーントラバース (右へ). 3m ほど  
小4ヨックをかかえてのリニシ. 終了 8:15. BC まで 30分  
このあと ST まで 帰る. 自信と責任感をもった山行だった。

= 飯豊・杣差岳・東俣川逆行 =

1. 日程 8月10・11・12日

2. Member 地元下越山岳会3名・山田弘二

3. <10日>

8:00 新発田発 ① 車で行く。

12:20 東俣川林道終点

14:20 ス、越ノ滝 廊下状が続く。

16:30 大沢出合附近暮営

<11日>

6:00 ライトカイト発 ②

廊下状が続き釜・滝が続く。  
核心部だけあって困難な所が  
続く。

13:10 広河原 小雨

ここより先は源流51くなる。  
長者原沢を過ぎ、そのあと大きな滝が二  
程続く。

17:00 小滝 釜が続き北の大沢をへめる。しかし、はり、  
大所ですぐビバーク。

<12日>

6:30 出発 ③

お、きり源流51くなり小滝が続く。

9:40 稜糸泉に出る ④

50 杣差岳山頂

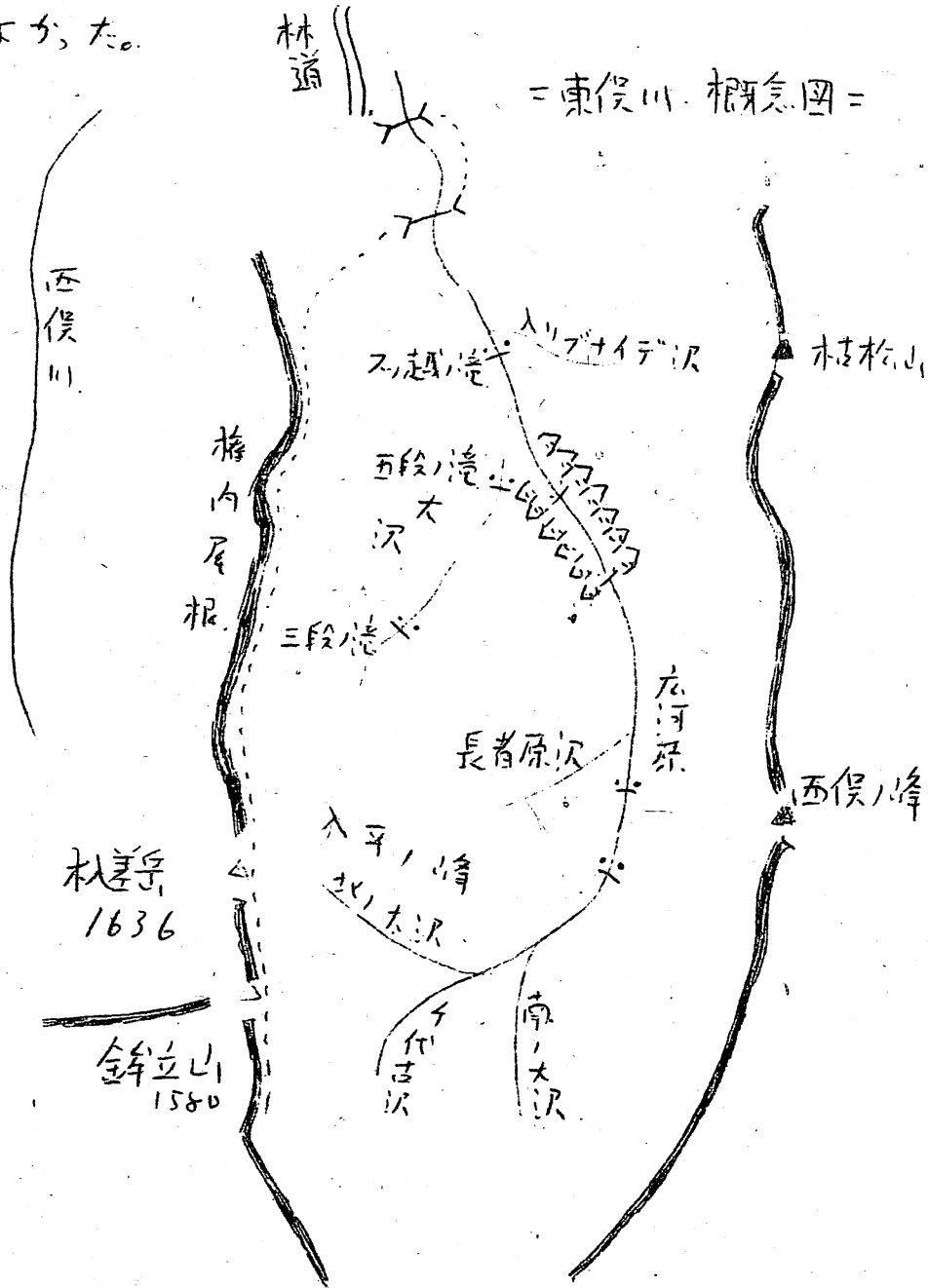
10:00 発 櫓内屋根を下る。

12:30 林道終点より車で新発田へ。

=感想=

飯豊の沢の中で大石川、東俣は逆川の記録もなく、又事実  
むずかしい沢で下越山岳会の人達に つまみ、つら、たおけ  
て、難場の通過が出来ず、ハッキリした沢の状態はあまり  
覚えていなかった。途中雨が降、たが増水しな、たの  
でよかった。

=東俣川 概念図=





<下・廊下の朝光山行> 8/29~8/30

8/29 7:10 熊の岩 B.C 徹夜 出発

① 8:20 真砂沢山荘

10:00 川口谷集結

11:20 内蔵山荘にて昼食

12:40 内蔵曲谷出合

14:30 黒部川曲谷出合にてテントを張る

8/30

① 5:30 出発

6:25 十字峠

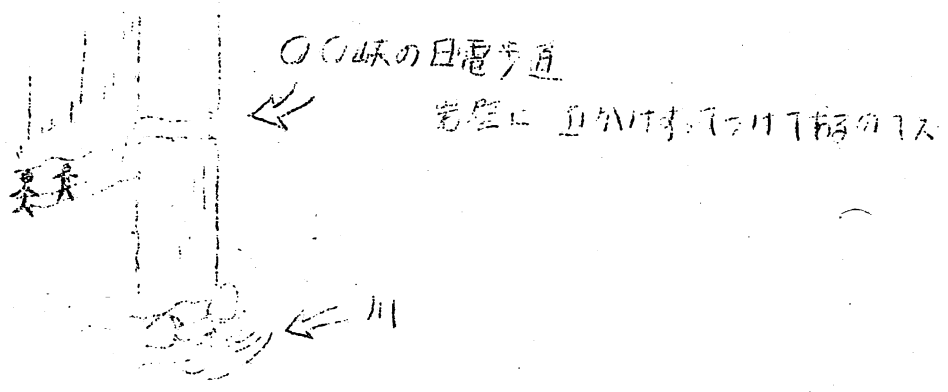
8:00 仙人岩

8:50 内蔵原

12:40 中平子 (15:00 = 松本へ)

この山行は夏の別荘を端定着合宿のついでという形で  
行われたものである。4日間の計画は中平子から仙人岩  
まで登りながら各山を後を振り返りながらの行程を  
計画していたが、仙人岩から仙人岩まで行くことが出来ず  
結局中平子までしか行かなかった。仙人岩の谷は大きかった。丸腰を  
や下片カシ、奥鏡西壁はこぼれ落ちてきて黒部の  
尾より下へ入った。白登峠から十字峠にかけては  
多分、木ノノラマが尾端にたつた。内蔵原での曇天  
凡言には残念なことがあった。旅を終る機会が  
たつてしまったのは残念。

大八- 山崎- 藤田 信人 40生  
 山田 弘二 10生  
 加藤 敏也  
 吉野 敏昭



# サマ天からの山行

- 1) びょうぶ岩 7/20 L.山本, 片山  
7/20 ㊦~㊩ S.T. ~ 東壁ルンゼ ~ パノマ新道 ~ S.T.  
(6時間 25分)
- 2) タタミ岩 7/30 L.中嶋, 吉野  
S.T. ~ タタミ岩中央ルンゼ ~ タタミ岩尾根 ~ 天狗沢 ~ S.T.
- 3) 穂高縦走 8/1 吉野  
㊦~㊫ S.T. ~ 前穂 ~ 奥穂 ~ S.T.
- 4) 8/5 二俣, 中嶋, 加藤  
㊦~㊫ S.T. ~ SKルンゼ ~ ヤマウ沢 ~ S.T.
- 5) 8/6 L.片山, 吉野, 加藤  
㊦ S.T. ~ 南稜 ~ 奥穂山荘 ~ 天狗沢 ~ S.T.
- 6) 8/7 L.山本, 下田, 瀬戸, 吉野, 加藤  
㊦ S.T. ~ コブ尾根 ~ 天狗待下降 ~ S.T.
- 7) 8/7 L.中嶋, 田中  
㊦ S.T. ~ 中又白 ~ 前穂回峰正面壁松高ルート ~ 前穂 ~ S.T.
- 8) 8/10 L.山本, 中嶋  
S.T. ~ 松高尾根 ~ IPのぼり尾根 ~ S.T.
- 9) 8/14 L.山本, 中嶋, 吉野, 加藤  
㊦ S.T. ~ 中又白 ~ 池 ~ 松高尾根下降 ~ S.T.
- 10) 8/15 L.山本, 西川, 箕田, 内川  
S.T. ~ 中又白谷 F8から往路下山

# 上田・長野山岳会 員名簿

氏名 年 月 日 年 (保護者)	学部 学年	血液型 部 屋	住所 〒 番 号	Tel Tel
山本章 S.29.4.25 (男 志子)	E Ⅲ	A Ⅳ	長野市七瀬 632 木次方 佐賀県末広 22-13	09522-3-7488
中嶋岳志 S.32.2.28 (真二)	E Ⅲ	A Ⅲ	長野市箱筒水2200 城山2-7-119 長野県豊科町大字豊科1149	02673-3-4985
瀬戸由則 S.31.4.3. (信哉)	T 3	O Ⅲ	長野市若里荒木 214-3 紫野荘 奈良県橿原市川面町82 川西団地 34-2	07442-9-7027
竹之内 実 S.30.8.1. (正壽)	T Ⅱ	O Ⅱ	長野市若里 500 若里寮 東京都白野市車平山 2-8-8	28-6830 0425-83-0746
土田 二 S.27.10.30. (女 男)	F 4	O Ⅳ	上田 杉本町 1-1-15 太田入 長野市滑石町 1492-12	0268-23-2818 0958-506-2343
奥田 俊晴 S.30.7.13 (俊二)	F 3	A Ⅲ	上田 踏入 2-3-9 青木方 和歌山県東石川郡那智勝浦町	0268-22-6373 07235-2-3106
藤田 純一 S.33.7.12. (男)	T 1	A Ⅰ	松本市大町 355 大町方 福井県松本 3-18-8	0263-46-6822 0776-22-5748
吉野 敏昭 S.33.11.16. (昭二)	T 1	B Ⅰ	松本市旭 2-11-16 山手み花 山形県米沢市城井 1-7-3	0238-25-9588
山田 弘二 S.32.9.17. (三子)	F 1	A Ⅰ	松本市奥 3-8-5 新潟県新登田市大字町 1-7-2	0263-32-0166 02542-2-3216